B01 旧世界のオビキンバエの属の再検討

倉橋弘 (国立感染症研究所昆虫医科学部)

Generic revision of the Old World Chrysomyine blow flies

Kurahashi, H.

旧世界のオビキンバエ亜科の成虫外部形態と外部生殖器を比較解剖し、UPGMA法により系統解析し、オビキンバエの属レベルの分類を再検討した。これまで多くの学者により *Chrysomya* s. lat. として分類されていたものは、Fan(1965)が試みたように細分することがより系統を反映した自然分類であることが判明した。したがって、旧世界のオビキンバエで *Chrysomya* Robineau-Desvoidy, 1830のシノニムとされていたもののうち *Psilostoma* Surcouf, 1920 (タイプ種: *Chrysomya incisuralis* Macquart, 1850) と *Ceylonomyia* Fan, 1965 (タイプ種: *Chrysomya nigripes* Aubertin, 1932) は復活されるべきものであると考える。Fan(1965)が復活させた *Achoetandrus* Bezzi, 1927 (タイプ種: *Musca albiceps* Wiedemann, 1919) は *Psilostoma* Surcouf, 1920の復活によりこれのシノニムとなる。

B02 日本産ヒメフンコバエ属 (Genus *Spelobia*) の分類学的研究 (双翅目, フンコバエ科)

林利彦 (国立感染症研究所昆虫医科学部)

Taxonomic study on the genus *Spelobia* from Japan (Diptera, Sphaeroceridae)

Hayashi, T.

日本産ヒメフンコバエ属 (Genus *Spelobia*) は Hayashi (1986) がキハラヒメフンコバエ (改称) *Spelobia* (*Bifronsina*) *bifrons* およびヒメフンコバエ (改称) *S. (S.) luteilabris* の2種を記録している。この属はチビフンコバエ亜科 (Subfamily Limosininae) のなかで、 r_{4+5} が直線的で、前縁脈の終わりで終了している；翅や体に斑紋はない；雄尾節後背方に1対の剛毛が生える；雄腹部第5腹板後縁に櫛状の小棘の列がある等の総合的特徴から日本産他属と区別される。また、成虫は動物糞や腐植質に集まる性質がある。今回、日本産ヒメフンコバエ属を調べた結果、上記2種の他に、2新種とホソカオグロヒメフンコバエ (新称) *S. (S.) cambrica* およびチチュウカイヒメフンコバエ (新称) *S. (S.) hungarica* を見いだしたので報告する。